

6年	課題分析	授業改善策	新学習指導要領に向けて	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことに苦手意識をもつ児童が多く、読むことや書くことの指導に時間がかかる。 ○漢字の定着に個人差が見られる。 ○自分の考えの理由をに時間がかかることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読解のスキルを分かりやすく身に付けられるように、スモールステップの学習を取り入れる。また、単元ごとに身に付けたい力を絞って単元計画を考え、年間を見通して積み上げる。 ○言語活動「それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動」を多く取り入れ、意欲につなげ、思考力、判断力、表現力を育てていく。 ○様々な形式の書く活動を意図的に取り入れ、基礎的なスキルの向上とともに、伝える楽しさを実感させていく。書き慣れることと、語彙を増やすことを目的として、日常的に日記や短作文に取り組むようにする。 ○授業の中では、新出漢字の習得時に言葉広げなどをして、語彙力とともにスキルを高めていく。また、個人の能力に合った漢字練習法を提案し、自分に合った方法を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【言葉による見方・考え方】言葉の意味・関係、使い方などに着目しながら、スモールステップで文章を書いたり、メモしたりするなど自分の思いや考えを言葉で表現する活動を多く取り入れる。 【対話的な学びの視点からの言語活動の充実のための工夫】ペアやグループ学習を取り入れ、相手に伝わるよう話したり最後まで聞いたりする経験を積ませ、言語活動の充実を図る。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○問題文から演算決定をするための情報を読み取る力が弱い。 ○様々な大きさに対する量感が不足しており、単位の換算(m→cm、kg→gなど)が未定着な児童がいる。 ○身の回りの事象を簡潔に表現するために、グラフを活用できる児童が少ない。 ○ベーシックドリル診断シートの結果、「式の表し方」「箱の形」の定着に課題があることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他教科での学習に概数の考えを用いたり、生活の中で概数を用いる場面を想起させたりして活用する力を養えるようにする。 ○問題文をよく読んで、図に整理する学習を繰り返す、元にする量を捉えることができるようにする。 ○小数の四則計算の反復練習を学習の初めに行い、基礎的なスキルの向上を目指す。 ○ベーシックドリルを活用し、課題のある領域の定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学びに向かう力・人間性】数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養うようにする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な事象を具体的に目に見える形として提示しないと理解が進まない。 ○「考察」では、実験結果や事象から分かったことを基に、考えたことを落とさずに書くことができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の流れを明確にした上で、自分の考えを言葉だけで表現させるのではなく、イメージ図やモデル図なども活用して表現させていく。 ○身近なことを課題として取り上げ、実験を通して課題解決を行うようにする。実験結果から分かることを明確にし、そこから自分が考えたことをまとめさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学びに向かう力・人間性等】自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察や実験を行い、その結果を基に考察し、結論を導き出すなどの問題解決の活動を充実させる。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○興味関心の高い児童とそうでない児童の差が大きいので、一部の児童の発言により学習が進んでしまうことがある。そのため、授業に主体的に臨んでいない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決型の学習計画を立てるとともに、授業導入時に、興味関心のわく明確な発問をする。 ○課題解決の時間を確保し、主体的に学習を進められるようにする。 ○授業の導入時に児童の興味関心を喚起できる資料を提示し、意欲をもって授業に参加できる児童を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考力、判断力、表現力等】「考えたこと」に加え、「選択・判断したこと」を文章で記述したり資料などを用いて説明したり、話し合ったりする力を養う。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○英語の発音や、コミュニケーションには、個人差が大きい。 ○ALTの役割が単元ごとに明確化されておらず、より効果的な指導体制の構築のため、ALTとの指導内容の共有をどう進めていくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵や文字のカードやCDを活用し、ゲームを取り入れて英語の基本的な表現に親しみやすい学習内容にする。 ○互いの活動や役割をパターン化して、効果的な指導ができるように、工夫する。また、外国語担当教員が窓口となり、各学年の指導計画や指導内容についてALTと打ち合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【主体的・対話的で深い学び】知識・技能をコミュニケーションにおいて活用し、外国語で情報や自分の考えなどを表現し、伝え合うことを重視している。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○表現活動において、どのような表現にしたいのか思いをもてる児童とそうでない児童がいる。 ○表現するための技能の定着に差がある。 ○読譜できる児童とそうでない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲を高め、技能のポイントを学びやすくするため、学習の場を工夫する。一人一人の目標や課題意識をもって、練習に取り組めるように様々な活動ができるようにする。 ○授業の前半に、不足する力を補い、基本の動きを高める運動を取り入れる。 ○良い動きのチームや児童の様子を観察させる。互いに教え合ったり、工夫したりする場を設ける。 ○スモールステップで取り組ませることを心掛け、運動遊びの楽しさに触れる機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が音楽に出会う場面を大切に、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、一人ひとりが音楽に立体的に関わる。聴き取ったことを言葉や体で表現・比較し、関連付けにより、音楽との一体感や要素の働きなどを共有・共感すること。【深い学び】 	R2夏完了
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ○「感性や想像力を働かせ」て、「表現したり鑑賞したりする」資質・能力を、スパイラルに育成する必要がある。 ○思考力・判断力・表現力等を高め、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、学習の場が言語活動か、非言語活動かを意識して取り組む必要がある。 ○生活を豊かに美しくする造形や美術の働き、美術文化についての理解を進める学習を充実させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 【内容】○「表現・鑑賞」全ての造形活動に「造形遊び」の要素を取り入れ、児童が楽しく主体的に活動できる中で、感性や想像力を育てていけるようにする。 ○鑑賞の対象の幅を広げて「生活の中の造形」等、作品以外にも「鑑賞」の目を向けられるように育てる。 ○【共通事項】アの、形や色などを造形的な視点でとらえられるように、一部に「知識」も用いる。 【指導】○「A表現」の指導にあたり、児童が自分の良さや可能性を見出せるようにする。 ○楽しい内容で、主体的な活動ができるようにする。 ○言語活動を「B鑑賞」のみから、「A表現」でも扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図画工作科においては心と体を使って(触れたり、)感じたりする体験や、人との関わりを通して良さや価値を実感する活動を重視している。「主体的、対話的で深い学び」の視点に立ち、活動と学びの関係性や、活動を通して何が身についたのかという視点から、学習・指導の改善・充実を進める。 	R2夏完了
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○状況判断や資料の読み取り方に課題がある。 ○学校で学習したことが実践に結びつかない場合がある。 ○作品を仕上げるまでの時間に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を振り返り、また生かすことへの関心をもたせるよう、課題解決型の授業を行い、自分の生活で活用していけるよう意欲をもたせる。 ○時間と場の保障と安全管理に留意するとともに、学習感想をもとに個別の指導を充実させる。 ○家庭に協力してもらい、学習した内容を生かす場として、家庭での実践を促し、主体的な学びの定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題を設定し解決する力・生活を工夫し想像しようとする態度】社会の変化や持続可能な社会の構築等に対応し、家族・家庭生活、幼児、高齢者、食育、日本の生活文化、金銭管理、消費生活や環境に配慮した生活などに関する内容の充実を重視している。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○苦手な種目に意欲的取り組みさせる工夫が課題である。 ○自他の運動の様子を知り、スキルアップをするための練習や場の工夫をする学習を引き続き行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動能力の記録を取り自己の目標をもたせて練習させる。 ○学習資料の内容を充実させ、教室や体育館に掲示して理解を深めさせる。 ○互いの運動を見合ったり、学習カードを活用したりして、教え合う活動を積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「心と体の一体化・豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成」自己の適性等に応じた「する・みる・支える」に「知る」を加え、3つの資質・能力をバランスよく育む。更に仲間とともに課題を解決し、次の学びにつながる主体的・共同的な学習の充実を図ることを重視している。 	